

# 知的財産から見た地酒王国信州

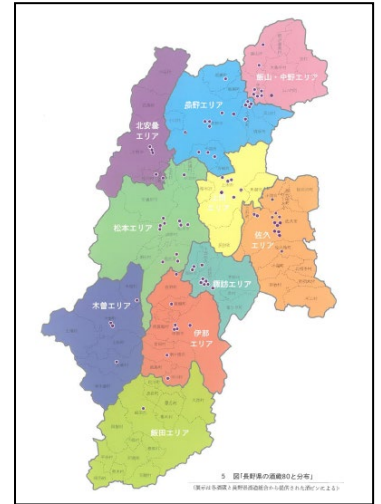
(長野県の産業振興施策の連動した支援のために)

INPIT 長野県知財総合支援窓口 久保 順一

## 1. はじめに

INPIT 長野県知財総合支援窓口では、令和2年度目標として、県の産業振興施策と連動し、以下に重点をおいた支援を行っています。

- ① 次世代産業分野の発展支援（健康・医療、環境・エネルギー、次世代交通）、② 農・水産物のブランド強化、③ 県内の地酒（日本酒、ワイン等）、④ 観光ブランドの形成・確立、⑤ その他（状況に応じて決定）です。これらのうち、本稿では、県内の地酒（日本酒）に絞って現状把握と今後の支援の方針を考察します。



## 2. 信州の日本酒作り

信州は、水、空気等の自然と米に恵まれ、日本酒造りに最適な諸条件を満たしており、おいしい清酒が多くの蔵元で作られています。

そこで、長野県酒造組合がホームページで公開している蔵元紹介に基づいて、蔵元ごとの商標調査を行いました。

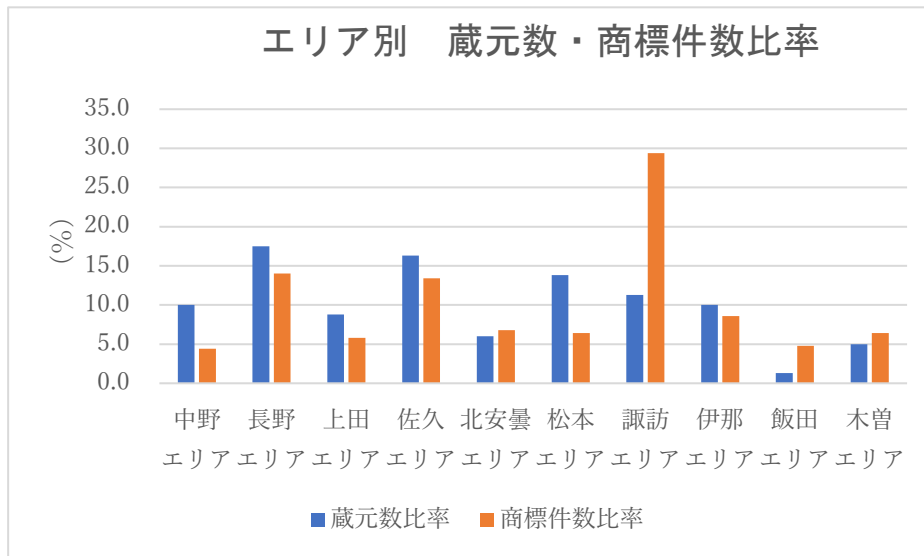
- (1) 長野県には80場の蔵元があります。地域別にみると、中野エリア8、長野エリア14、上田エリア7、佐久エリア13、北安曇エリア5、松本エリア11、諏訪エリア9、伊那エリア8、飯田エリア1、木曽エリア4です。
- (2) この80場の蔵元それぞれの商標登録件数を調査すると以下のデータが得られます。

- ① 全県で500件の商標登録がなされており、諏訪エリアが147件／29.4%を占めています。他は長野エリア70件／14%、佐久エリア67件／13.4%と大きな差があります。(表1参照)

表1 長野県内のエリアと商標登録状況

エリア名	合計	中野	長野	上田	佐久	北安曇	松本	諏訪	伊那	飯田	木曽
蔵元数(場)	80	8	14	7	13	5	11	9	8	1	4
商標件数(件)	500	22	70	29	67	34	32	147	43	24	32
1蔵当たり(件)	6.3	2.8	5	4.1	5.2	6.8	2.9	16.3	5.4	24	8
蔵元数比率(%)	100	10.0	17.5	8.8	16.3	6.0	13.8	11.3	10.0	1.3	5.0

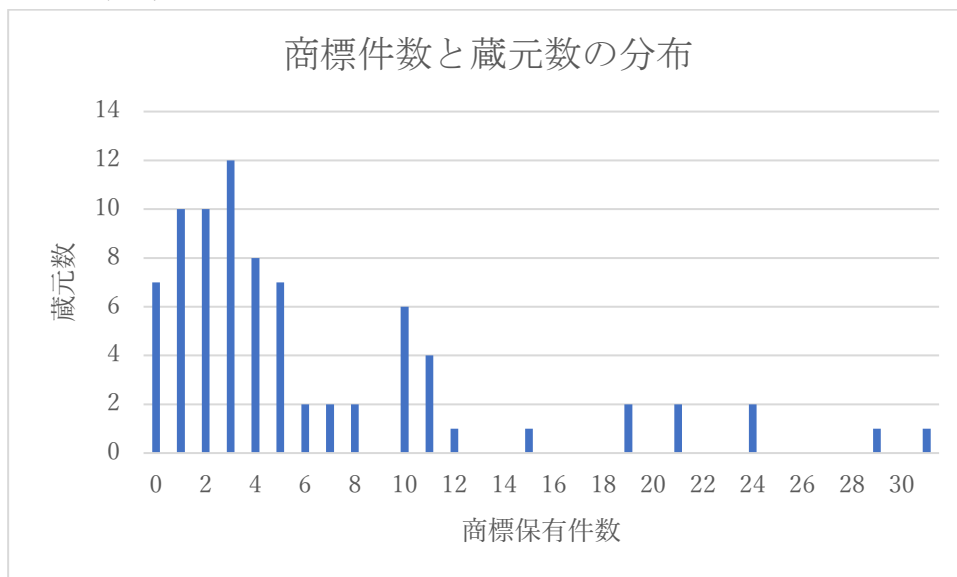
商標件数比率(%)	100	4.4	14	5.8	13.4	6.8	6.4	29.4	8.6	4.8	6.4
-----------	-----	-----	----	-----	------	-----	-----	------	-----	-----	-----



② 商標登録件数と蔵元数の関係をまとめます。(表2)

10件以下の蔵元が83%、20件以下が93%でした。3件以下は50%であり、大半は商標登録少ないことを示しています。そして、登録商標を保有しない(主要銘柄を登録していない)蔵元が7場あります。

表2 商標登録件数ごとの蔵元数



③ 商標10件以上の蔵元を示します。(表3)

宮坂醸造(株)43件がずば抜けています。近時、小布施酒造(株)／小布施ワイナリー(株)が件数を増やしています。小布施ワイナリー(株)の出願には、清酒を指定商品に入れてあるため、件数に含めています。

表3 登録件数上位（10件以上）

	蔵元名	商標登録件数	住所
1	宮坂醸造（株）	43	諏訪市
2	諏訪大津屋本家酒造（株）	29	茅野市
3	喜久水酒造（株）	24	飯田市
3	（株）豊島屋	24	岡谷市
5	七笑酒造（株）	21	木曾町
5	小布施酒造（株） 小布施ワイナリー（株）	21	小布施町
7	（資）宮島酒店	19	伊那市
7	伊東酒造（株）	19	諏訪市
9	信州銘醸（株）	15	上田市
10	武重本家酒造（株）	12	佐久市
11	千曲錦酒造（株）	11	佐久市
11	戸塚酒造（株）	11	佐久市
11	大信州酒造（株）	11	松本市
11	（株）仙醸	11	伊那市
15	天領誉酒造（株）	10	中野市
15	（株）尾澤酒造店	10	長野市信州新町
15	（株）柘一市村酒造店	10	小布施町
15	大雪溪酒造（株）	10	池田町
15	（株）舞姫	10	諏訪市
15	麗人酒造（株）	10	諏訪市

（3）商標出願・登録の歴史（表4）

登録時期の古い順に10銘柄を並べました。

最も古い「千曲錦」は、1908年（明治41年）で112年前になります。以降も、毎年各蔵元で主要銘柄を登録しています。商標法の制定が明治32年（1899年）ですので、古くから商標登録制度が知れ渡り、活用されていたことになります。

表4 商標登録時期（古い順）

登録商標	登録年月	出願年月	蔵元名	所在地
千曲錦	1908.7	1908.6	千曲錦酒造（株）	佐久市
白金	1909.11	1909.1	（株）柘一市村酒造店	小布施町
姫百合	1909.12	1909.9	小山昴（麿）	小諸市

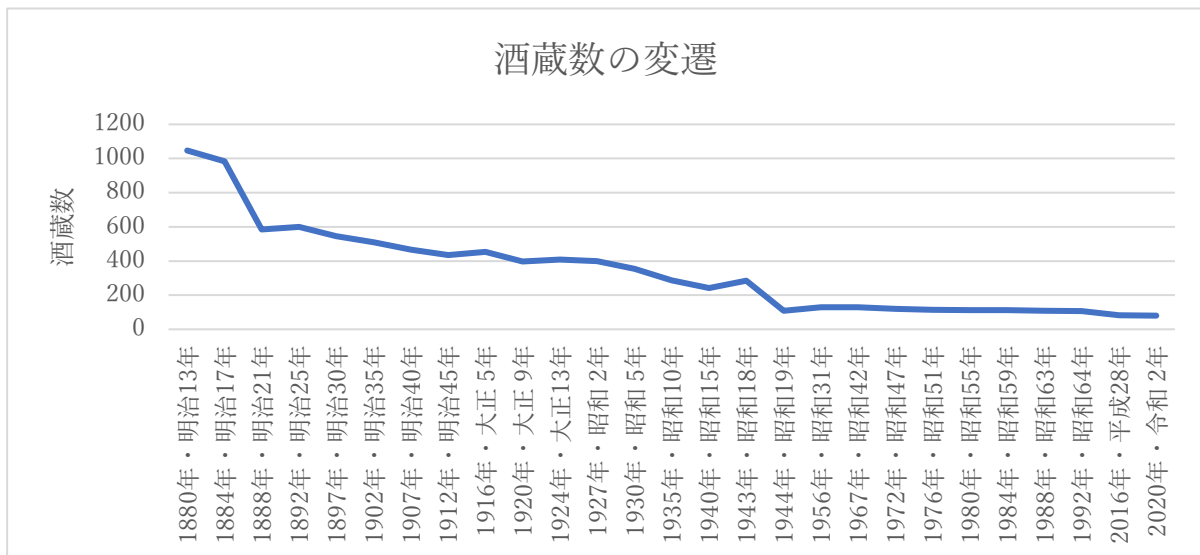
尾松∞正宗	1910. 6	1910. 4	(株) 高橋助作酒造店	信濃町
亀齢	1911. 5	1910. 9	岡崎酒造 (株)	上田市
喜久水	1912. 12	1912. 6	喜久水酒造 (株)	飯田市
金紋正宗	1913. 10	1913. 8	麗人酒造 (株)	諏訪市
宝ヶ池正宗	1914. 7	1914. 4	坂井銘醸 (株)	千曲市
白馬錦	1916. 5	1916. 3	(株) 薄井酒造店	大町市
松尾鶴	1916. 10	1916. 7	(株) 高橋助作酒造店	信濃町
本金正宗	1916. 9	1916. 7	酒ぬのや本金酒造 (株)	諏訪市
正宗∞真澄	1917. 6	1917. 4	宮坂醸造	諏訪市

### 3. 酒蔵数の変遷と今後

#### (1) 酒蔵数の変遷 (表5)

1880年(明治13年)には1000以上あった酒蔵は、同年の酒造税制制度開始、1884年(明治17年)大不況、1904年(明治37年)日露戦争による酒造税大增税、1930年(昭和5年)昭和大恐慌、1941年(昭和16年)酒の配給制、1944年(昭和19年)蔵元の整備等により、酒蔵数は減り続け、現在は80になっています。

表5 酒蔵数の変遷 (参照：長野県酒造組合資料)



### 4. 長野県の蔵元の商標件数の変遷と今後

#### (1) 新規商標登録件数の推移 (表6)

1908年の千曲錦(千曲錦酒造(株))を第1号として、継続的に商標登録がされたものの、年2件以下が、1970年(昭和45年)まで続いています。その後、急増し、1997年(平成9年)には年間47件になっています。しかし、その後減少を続け、現在は年間10件台が続いています。

(2) 商標放棄件数の推移 (表7)

商標登録は、10年単位で、継続の要否を検討し、使用しているものは更新登録により、さらに10年間継続させます。このため、永久権と云われており、放棄するものは使用されていない、あるいは売り上げが少なくて更新費用に見合わないと思われる場合が多く、その変遷により、その業界の盛衰が確認できます。表7の酒蔵の商標放棄件数の推移によると、2001年までは登録件数が放棄件数を上回っていましたが、現在は、同等または、放棄件数が上回る状態が続いています。このことは、業界の状態が良くないことを示していると解されます。

表6 酒蔵の商標登録件数推移

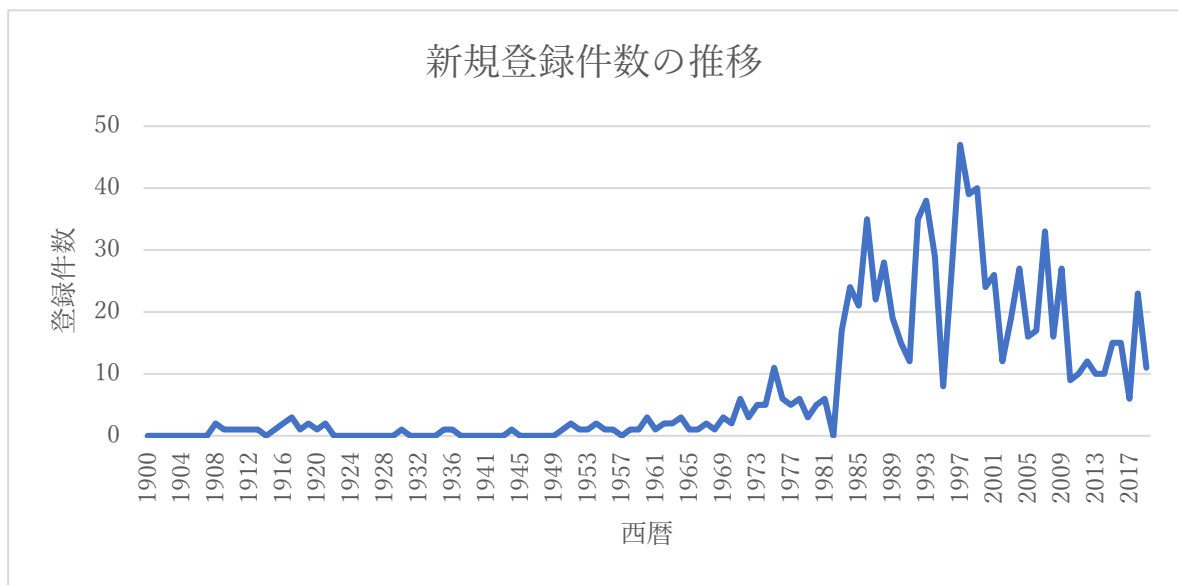
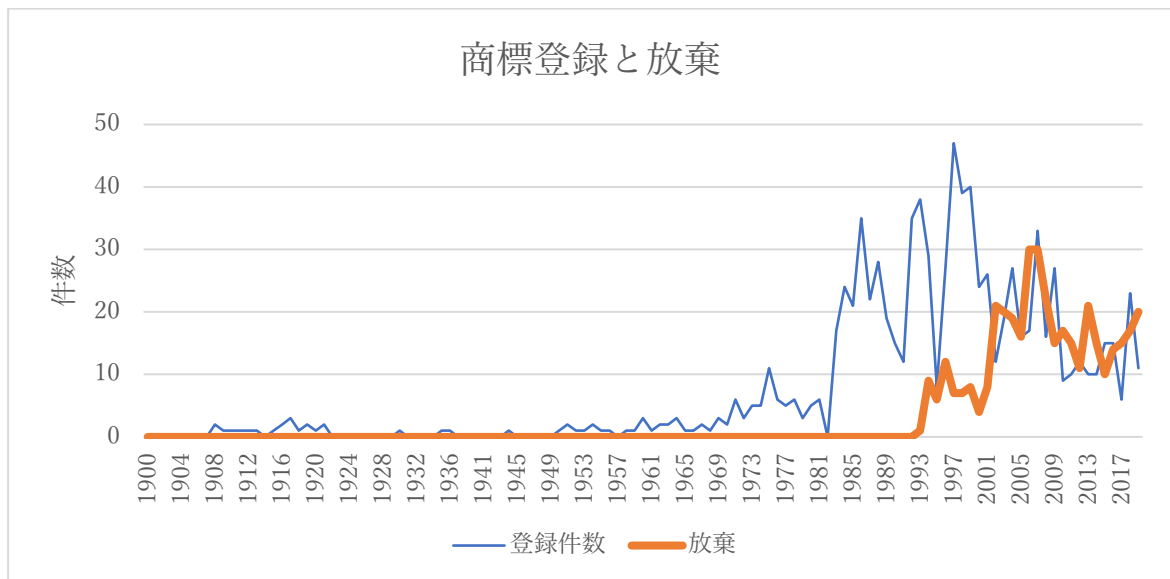


表7 酒蔵の商標放棄件数の推移



## 5. まとめ

長野県は、地酒の宝庫であり、その蔵元数も、新潟県に続く全国第2の位置にあります。しかし、上記で確認したように、蔵元数は年々減少し、さらに、新規商標登録件数が、1997年（平成9年）をピークに減少を続け、一方、放棄件数は新規登録件数を上回る状態になっています。

アルコール摂取量の減少、ワインやシードルへの志向の変化等マイナス要因はあるものの、日本酒生産は長野県にとって重要な産業の一つであります。

蔵元とともに自治体等も協力して盛り上げるような体制づくりを期待します。知財総合支援窓口として、知財面から関係各位を協力して支援致したく、宜しくお願い致します。

また、今回は国内のみを調査しましたが、海外での日本酒ブームを狙って海外に進出を試みている蔵元もあると思われます。海外は、国寄っては知財意識に差異があり、日本以上に注意が必要です。INPIT 知財総合支援窓口は海外における支援も可能ですので、お声がけをお願い致します。

（原稿作成2020年8月）